

大阪府のチャレンジテスト社会Aを検討しました (投稿)

1月14日(水)、府下一斉にチャレンジテストが実施されました。中学1年生は国数英の3科目、中学2年生は理社を加えて5科目で行われました。テスト終了後「社会A」の問題を見せてもらいました。私を感じた事を書いておきます。

テスト内容の特徴は

地理分野27問、歴史分野11問。地理の内容は日本地理に集中。歴史の出題のほとんどは江戸時代からの出題。進度にあわせて、各学校でA・Bの2種類から選択したようですが、出題にかたよがりがあると思います。

「知識・理解」を問う問題がほとんどで、「資料活用」を問うものは6問。文章で答える「思考・判断・表現」を問うものは2問でした。

全体に基本的な問題が多く、しっかりテストにのぞめば高得点が期待できます。

さて、テスト終了後、教育委員会から実施にあたってのアンケートが教職員に配られました。2日以内の回収で、実施を前提にしたアンケートなので、教職員の回収数はあまりありませんでした。今年は「試行」なので、意見を書かなければ、支持を得たとして来年から本格実施にされてしまうので、あえて次のような私の意見を書いておきました。

チャレンジテストの目的は、学力保障、学力向上とっていますが、高校入試の資料としても使うとっています。どのように資料として使うかは発表されていません。

文科省や府教委は評価の観点を4つ示しており、この観点を評価を行うよう指示しています。4つとは「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」ですが、今回のテストは「知識・理解」に集中しており、今回のテストで評価を出すことは不可能です。校内でのテストで目的を果たせますので、府下一斉で競争させる目的であることが明らかです。

テストを受けた生徒の側からみるとどうでしょう。採点は各校で行うのではなく、業者に丸投げで採点基準もしめされていません。生徒たちは個票にして点数を返してもらうだけで、答案用紙の返却もありません。どこの問題を誤ったのかをふりかえる事もできません。

テスト範囲は前年度に配られていたので歴史の部分では江戸時代まで進んでいると思いますが、本来教育課程の編成権は学校にあるのに、授業の進み具合について教育委員会が介入してくることになります。各校に進度についての確認がいるのではないのでしょうか。

1月はインフルエンザ流行の季節で、本校でも出席停止の生徒がいました。この生徒達に再テストさせるのかなどの取扱いが示されていません。入試資料にするのであれば、不利益にならない方法を明確にしなければなりません。

このような内容をアンケートに書きましたが、今の状態でチャレンジテストは行うべきではないと思いました。私は今回のテストについて、次のような感想をもちました。

教職員の合意を大切にすることなくトップダウン方式で行うと、現場は混乱します。テストで一日授業がつぶれ、本来の教育活動がおろそかにされ、競争原理によって受験へおいたてられていく事は、許されるべきではないと思いました。

事業の当初目標は「生徒の学力状況を把握、分析・検証することにより、学習内容の着実な理解と教育活動の改善・充実に生かす」だけでしたが、後から「ともに府内における評定の公平性を担保する。」(いずれも府教委HP)が追加されました。府教委の真の目的は後段にあるのではないかと疑う声もあります。今回のテストの内容について、中学校社会科の先生から上記のような投稿がありました。まさに、疑問だらけのチャレンジテストです。

1月14日、大阪府下の中学校1・2年生全員を対象に「大阪府中学生学びチャレンジ事業チャレンジテスト」が実施されました。

前日に配送業者により問題等が学校に配送され、翌日に配送業者が解答用紙の回収。採点も外部業者に委託する方法は、「全国学

調」と全く同じ手法です。しかも、送られてきた解答用紙の綴じ方や回収方法、問題冊子の形式まで同じでした。

府教委が事業の「成果指標」を「平成29年度の全国学力・学習状況調査における、中学校の平均正答率について全国水準をめざす。」



疑問だらけのチャレンジテスト

「集団的自衛権」の行使反対。教え子を再び戦場に送るな。